

I 主 題

進んで考え、なかまと学び合おう

II 主題について

一昨年度より、児童の「知りたい」「分かってほしい」「考えたい」という学びに向かう気持ちを大切に「主体的・対話的で深い学び」の授業を通して、自ら進んで考え、なかまと学び合える児童を育てることを目指して取り組んでいる。1年目は、課題提示やワークシートの工夫、支援が必要な子に対する手立てを重点的に行ったことにより、児童は意欲的に学習に取り組めるようになってきた。2年目については、「なかまとの対話」と「ICTの活用」を積極的に授業に取り入れていった。その結果、タブレットを活用しながら自分の考えを説明し合うなど活発に意見を伝え合うことができるようになってきた。しかし、「なかまとの対話」の場面において、自分の考えを伝えるだけで、友達の考えを聞いて自己の考えを振り返ったり新たな考えに気付いたりする姿があまり見られないことが課題として上がってきた。

そこで本年度は、昨年度までの実践を継続するとともに、「なかまとの対話」を重点的に工夫して行うことで、友達の考えを聞いて自己の考えを振り返ったり、新たな考えに気付いたりすることなどができるようにしていく。また、ICTについては、対話のツールとして積極的に活用することで、自分の考えをまとめたり分かりやすく表現したりすることができるようにする。

このような手立てを取り入れた授業改善を積み重ねていくことで、「進んで考え、なかまと学び合おう」とする児童を育てていくようにする。

III 研究の方法

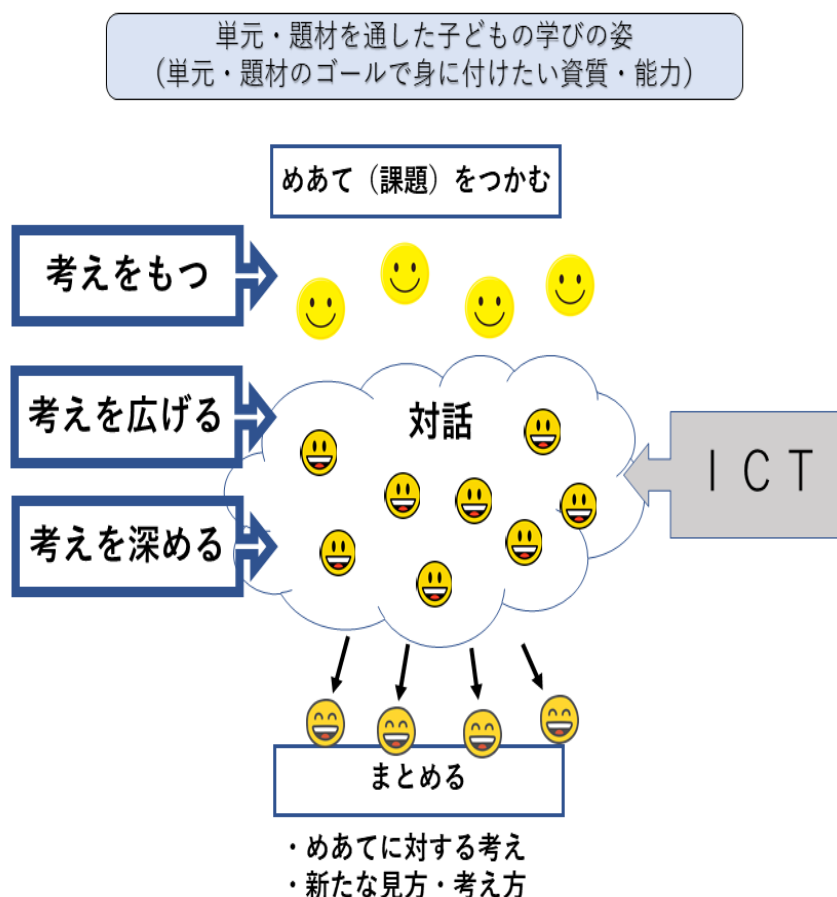
1 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくり

(1) ねらいを達成するための手立ての工夫（継続）

ねらいを達成するために、個に応じた手立てを講じる。「考えを深めるための思考ツールや対話活動」や「有効な対話の形態（座席配置）」「ICT」等、個々の児童に必要であり有効である手立てを工夫する。

(2) 対話を大切にした授業

対話をする必然性がある課題を設定し、対話が深い学びにつながるようにする。また、課題に応じて、効果的な対話の形態（規模やツール等）や対話の対象（異学年交流等）を工夫することで、児童の「対話」を広げ、自己の考えを振り返ったり、さらに新たな見方・考え方に気付いたりするようにさせる。



(3) 活動を充実させるICTの活用

自分の考えをまとめたり分かりやすく表現したりすることができるように、対話のツールとして活用していく。活用するにあたっては、活動が充実するような場面や方法を検討し、取り入れるようにする。

(4) 単元・題材を通した子どもの学びの姿の想定（継続）

単元・題材や授業を通して、3つの視点「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が実現できた子どもの姿を具体的に想定し、その姿に結び付くような手立てを検討する。